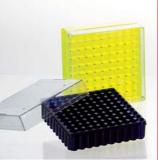
CryoPure 凍結保存システム

凍結保存をさらにパワーアップ











Come Grow with Us



CryoPure凍結保存システム

CryoPure - 認証された確かな品質

厳格な管理体制のもとで製造されたCryoPureチューブには、生体保存中の細胞自身や細胞内を障害する恐れのある潜在的コンタミ要因は徹底的に排除されています。

また、厳しい検査基準をクリアしており、下記の認証を受けています。



- ✓ Sterile
- ✓ Pyrogen-free/endotoxin-free
- ✓ Non-cytotoxic
- ✓ Non-mutagenic
- ✓ IVD (€

下記の値を保証しています。

- Sterile ISO11137に準拠
- Pyrogen/endotoxin <0.06 EU/ml
- Non-cytotoxic ISO 10993に準拠
- Non-mutagenic Ames Test II に準拠



優れた汎用性

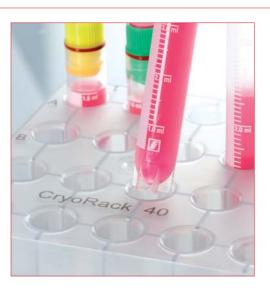
- 1.2~5.0mlまでの容量範囲で使用可能な透明度の高いCryoPureチューブは、安全な外ネジ式スクリューキャップ付きで、コンタミリスクを最小限に抑える構造になっています。
- 10 x 10 配列の凍結保存ボックスを使ってさらにコンパクトな保存が可能。
- シリコン製O-リング付内ネジキャップ2.0mlのCryo-Pureチューブの内底は、残液なく完全に排出するの に最適な形状となっています





人間工学に基づいたデザイン

- "クイックシール"スクリューキャップは人間工学に基づいて おり、ひとひねりで簡単に開閉できます。
- スカート付きの使いやすい形状が、クリオラック40や 他メーカーの市販ラックでも片手での開閉を可能にします。



カラーコードオプション

- キャップ、カラーインサートの組み合わせにより、最大36種類の色分けができます。
- 2 ml CryoPure チューブ、 カラーインサートには青もございます。









オーダーインフォメーション

CryoPure 1.2 mlチューブ(アウターキャップ)

Art. No.	キャップカラー	適正容量	包装単位(本)	
72.377	É par	1.0 ml		
72.377.002	赤	1.0 ml		
72.377.004	黄	1.0 ml	50 / 袋 500 / 内箱	
72.377.005	緑	1.0 ml	2,000 / 元箱	
72.377.007	紫	1.0 ml		W G
72.377.992	ミックス	1.0 ml		

CryoPure 2.0 mlチューブ (アウターキャップ)

Art. No.	キャップカラー	適正容量	包装単位(本)	
72.379	白	1.8 ml		
72.379.002	赤	1.8 ml		
72.379.004	黄	1.8 ml	50 / 袋	
72.379.005	緑	1.8 ml	500 / 内箱	
72.379.006	ブルー	1.8 ml	2,000 / 元箱	
72.379.007	紫	1.8 ml		
72.379.992	ミックス	1.8 ml		

CryoPure 5.0 mlチューブ (アウターキャップ)

Art. No.	キャップカラー	適正容量	包装単位(本)	
72.383	白	4.5 ml		
72.383.002	赤	4.5 ml		THE
72.383.004	黄 🥖	4.5 ml	25 / 袋 250 / 内箱	C THINKS
72.383.005	緑	4.5 ml	1,000 / 元箱	
72.383.007	紫	4.5 ml		
72.383.992	ミックス	4.5 ml		

CryoPure 2.0 mlチューブ(シリコン製O-リング付インナーキャップ)

Art. No.	キャップカラー	適正容量	包装単位(本)	
72.380	白	1.6 ml		
72.380.002	赤	1.6 ml		
72.380.004	黄	1.6 ml	50 / 袋	
72.380.005	緑	1.6 ml	500 / 内箱	
72.380.006	ブルー 🧪	1.6 ml	2,000 / 元箱	
72.380.007	紫	1.6 ml		
72.380.992	ミックス	1.6 ml		

CryoPureチューブ用コーディングプレート

Art. No.	色	包装単位(本)	
65.386	白		
65.386.002	赤		
65.386.004	黄	100 代 2000 / 三符	
65.386.005	緑	100 袋・3,000 / 元箱	
65.386.006	ブルー 🧪		
65.386.007	紫		
65.386.992	ミックス	100 /袋 x 5 色 • 2,500 / 元箱	

CryoRack 40 / ワークトレイ

- 40本のチューブを収納(4x10)
- チューブ底部とラック収納部がかみ合い、片手で開閉可能
- 各ウェルに識別用ナンバリング
- 滑り止めゴムパッド付き
- オートクレーブ可能 (121°C、20min.)



オーダーインフォメーション CryoRack 40

Art. No.	包装単位(個)		
93.856.040	1/袋•10/箱		

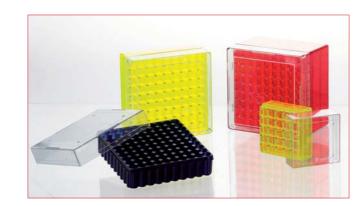


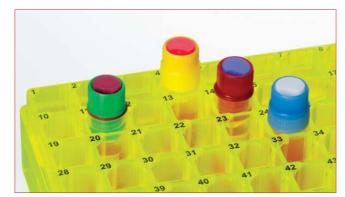


安全のしおりとユーザーガイド

凍結保存ボックス

- 高品質ポリカーボネートを使用し -196℃までの低温保存が可能
- サンプルを容易に識別するため各ウェルにナンバリング
- 透明度の高いカバー部分、底部分は通気性を確保します。 3色(赤・黄・青)をご用意しております。
- 標準タイプのチューブ1.2/2.0/3.5/5.0 mlに適合
- 3種類の配置形式(5 x 5、9 x 9、10 x 10)の仕切り付きボックス。フレキシブルな保存が選択可能。
- オートクレーブ可(121℃、20min)





数字によるコーディング

凍結保存用クリオボックス

適合チューブ	1.2~2.0 ml			3.5∼5.0 ml
配列	5 x 5	9 x 9	10 x 10	9 x 9
保管容量	25	81	100	81
ボックスサイズ (WxDxH)、mm	75 x 75 x 52	132 x 132 x 53	132 x 132 x 53	132 x 132 x 95
	インナー / アワ	ウターキャップ	インナーキャップ	インナー / アウターキャップ
適合チューブ				

包装単位(個)	色	Art. No.			
5 / 袋 20 / 元箱	赤	93.872.225	93.873.281	93.874.210	93.875.281
	黄	93.872.425	93.873.481	93.874.410	93.875.481
	青	93.872.625	93.873.681	93.874.610	93.875.681

安全上のご注意

CryoPureチューブは常に液体窒素の気相中に保管してください。

凍結保存中は、チューブ内が真空になります。真空度は内容物の容量(凝固容量)により異なります。CryoPure チューブが液体窒素内に保管されていると、内部の真空度に比例してチューブ内に液体窒素が入り込んできます。チューブの内容物の排出および解凍、もしくは一方の作業を行っている間、液体窒素は気体に変化し、内部圧力が高まります。その結果、感染性物質が放出されたり、チューブが爆発したりする恐れがあります。コンタミ物質を含んだ窒素がチューブ内に入った場合も、試料のコンタミにつながる恐れがあります。

CryoPure チューブの取り扱い時には、常時適切に、安全注意事項を遵守してください。

- チューブは気相にのみ保管すること。
- チューブの容量ラインまで試料を満たすこと
- キャップは手で締めること。締めすぎに注意し、また器具を使用しないこと。
- 防護服、保護面、眼鏡および手袋を着用すること。
- 解凍プロセスでは、チューブをコンテナ(水槽など)に入れ、カバーをすること。

なお、所属する研究室の安全基準にも従ってください。

哺乳類細胞を凍結する際の標準プロトコル

- PBSで細胞を洗浄する。
- 細胞の種類により、適切な方法で細胞を除去。(例:EDTA、トリプシンまたはEDTA-トリプシン溶液を使用して細胞層を処理)。
- 血清を含んだ細胞培地の反応を止める。
- ノイバウエル血球計算盤で細胞数をカウント。
- 細胞を遠心分離にかけ(5分間、350 x g, 室温)、浮遊物を捨てる。
- 血清を含む培地に細胞ペレットを再度懸濁し、最終的な細胞濃度を約107 セル/mlにする。
- 2倍濃縮した寒剤 (例: 培地50%、FCS 30%、DMSO 20%) を所定量加える。細胞数は少なくとも約5 x 106 セル/ml となる。
- CryoPure チューブの容量ラインまで満たす。
- 試料を冷却速度が 1° C/分になるよう、 -80° Cの絶縁コンテナに入れる。細胞は -80° Cで最低6時間保管する。細胞の種類により異なるが、 -80° Cで数日生存可能な細胞もある。
- チューブを液体窒素の入った槽に移す。

解凍の標準プロトコル

- CryoPure チューブを液体窒素フリーザーからすばやく取り出し、37°Cの水槽に入れてカバーをする。
- 解凍後、70 %濃度のアルコールでチューブを短時間殺菌する。乾燥させ、細胞懸濁液を15 ml 遠心チューブ (例: Art. No. 62.554.002など) に移す。
- 培地を加え細胞を遠心分離する。(5分間、350 x g、室温)
- 浮遊物を捨て、細胞を未使用の適切な培地で再度懸濁する。
- 細胞培養フラスコに移し、培養する。

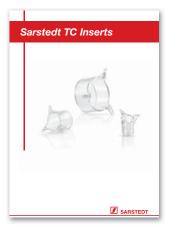




お問い合わせは 当社のウェブサイト www.sarstedt.com まで!



No. 215



No. 745



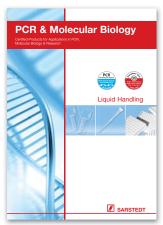
No. 798



No. 783



No. 719



No. 362



